

緑とともに

Toyota・Kamo
NPO法人 豊田・加茂
菜の花プロジェクト

2016年 7月発行

機関紙 第76号

この度の“熊本地震”により、被災された皆さま及び関係者の皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。
更に被災地の一日も早い復興を心より祈念いたしております。

はじめに

5月7日、毎年恒例となっています、総会と菜の花楽習会が開かれました。今年は約70名の参加がありました。楽習会では、可知祐一郎氏を講師にお招きし、講演会が行われました。また、総会等も無事に終わることができました。お忙しい中、ご来場頂きました方々及び関係者の皆様にはこの場をお借りして、お礼申し上げます。有難うございました。



菜の花楽習会の様子です

特集

第11回 菜の花楽習会

今回の楽習会は“食と農をつなぐ架け橋”～ともに築こう！地域の豊かな生活～というテーマで、可知祐一郎氏を講師にお招きし講演会が行われました。愛知県農林水産部に在籍されていた折は来賓としてもご出席頂き、プロジェクトとはとてもご縁のある方いらっしゃいます。今回の特集では一部ではありますが、ご講演について皆様気付いていただきたいことをまとめてみました。



講師：可知 祐一郎氏

楽習会内容

①多面的機能の理解

アンケート調査によると

- ・食育に関心がある方は93%
- ・食料をできるだけ国内で自給するべきと考える方は86%
- ・農林水産業には関心がない方が57%

消費者が食と農を
カイリして考えている！？



解決の為には・・・

食育活動で農業の理解を深めて行く必要性。
解決の糸口は「農業体験・地産地消・多面的機能の理解」の3つ。
中でも、多面的機能の理解が最も重要です。

農業・農村は県民共通の大切な財産です。担い手農家が離農し、受け手もいなくなるとその影響は計り知れません。農地は農業生産に供するからこそ、多面的機能が発揮されます。その為にも再生産価格で地域の農産物を買値を支える仕組みづくりが重要であると考えています。

②食料自給率、1%上げるにはどうすればいいの？

日本の食糧自給率は39%で、先進国最低水準です。日本の場合自給率の向上の鍵は「米」です。ですが、消費量は年々減少しています。



解決の為には・・・

1%の自給率をあげるには供給熱量の食材を輸入品から国産に置き換える計算で、「10日に一日1食だけ、パンやスパゲティからご飯に変える」ことで達成できます。

③ともに築こう！地域の豊かな生活

- ・農商工のバランスがとれた県土の維持発展を図るためには、農業に対する消費者の理解が欠かせません。
- ・食育を通じて取り組むことはもちろんのこと、農業・農村の多面的機能や生活環境、更には、地域おこしも含めて、総合的に考える必要があります。
- ・地域はそこで暮らす人達、そこで働く人達みんなできり立っています。同じ地域に生活する者として、地域の豊かな生活を共に築いていこうではありませんか。

楽習会参加者の感想

私達が生活をする上で、普段気が付いていなかった問題点などを、わかりやすく教えて頂いた講演会でした。問題を、食の話など日々の生活で解決できる具体例や、解決されている事例など、興味深く聞かせて頂きました。有意義な時間をありがとうございました。



資料の中で“食と農のカイリ”とありイメージとして若い世代などは特に農業には興味がないと思っていましたが農業体験ツアーなどといった楽しく参加できる新しい農業の形は若い世代が気軽に参加でき大変良いと思いました。さらに各地方の特色をいかし地方の再生ができれば豊かな生活にも結びつくと思いができ、可知さんの講演もすごく納得がきました。



各コーナー・イベント情報のお問い合わせ先

Toyota Kamo
NPO法人 豊田・加茂
菜の花プロジェクト
事務局 梅谷

〒471-0051 豊田市花丘町1丁目17番地
TEL 0565-41-4837 FAX 0565-34-3566
URL <http://www.hanaoka.biz/>